

第7章

PCB 分析の読み方・考え方

IQ PCB 分析表（第6章表1）

- 1 33種類、1678ケースの出荷であるが、
パレットの出荷は 28パレット（1678ケースの40%）
ケースの出荷は1006ケース（1678ケースの60%）
である。これから、
 - 1 パレット単位出荷とケース出荷がある。
 - 2 その割合はそれぞれ40%と60%である。この率は毎日変動しているが、1月間のEIQ分析をするとその変動幅がわかる。
- 2 IQ分析で100ケース以上の出荷は6種類である。したがって、上位10種類ぐら이가 A ランク品であろう。
- 3 10ケース以下の出荷が約半分の15種類である。したがって、約半分の種類は C ランク品と考えてよい。
- 4 上位12種類は1パレット以上、数パレットがパレットからケース・ピッキングされる。1日に出荷されるのがケースだけで数パレットあり、パレット出荷もあるから保管方法は基本的には、山積みである。
P P と P C の出荷であるから、簡単に考えると33種類の半分は山積保管、残りが、パレット・ラックが基本システムである。詳細には、在庫数量と1ヶ月間のEIQ分析を行うと保管と種類がもう少し明確になる。
また、ケース・ピッキングの能力は200~400ケース/人・時間であるから
ケース・ピッキングは $1006/200 \sim 400 = 5 \sim 3$ 人時となるので、1人で数時間かかる作業内容であろう。

EQ-PCB 分析表（第6章表2）

- 1 2軒中ほとんどが数パレット以上の注文であるから、基本的にシングル・ピッキングである。したがって、配車も客先別のトラックが中心となる。

IQ PCB 分析表〔バラ単位〕

- 上記 ~ はパレットとケースのIQ-PCB分析に基いた見方、考え方であつたが、このIQ-PCB分析データのパレットをケースに、ケースをバラに読み替えて考えるとどのようなシステムになるかを説明する。

- 1 33種類、1678バラの出荷であるが、
 ケースの出荷は 28ケース (1678バラの40%)
 バラの出荷は1006バラ [1678バラの60%]
である。これから、
 - 1 ケース単位出荷とバラ単位の出荷がある。
 - 2 その割合はそれぞれ40%と60%である。
(この率は毎日変動しているがほぼ同じような比率になるものである)
- 2 IQ データで100バラ以上の出荷は6種類である。したがって、上位10種類ぐらいがAランク品であろう。
- 3 10バラ以下の出荷が約半分の15種類である。したがって、約半分の種類はCランク品と考えてよい。
- 4 上位12種類は1ケース以上と数ケースがケースからバラ・ピッキングされる。
 P C とC Bの出荷である。
保管をパレットとケースに分け、ケース出荷はパレットから、バラ出荷はケース・フローラックと積層棚が基本システムである。
 バラ・ピッキングは1日に出荷されるのがバラだけで数ケースあるから基本的には、ケース・フロー・ラックである。
 簡単に考えると33種類の半分はパレット保管とし、ケース・ピッキングはパレットから、ケースからのバラ・ピッキングはフロー・ラックで、1日に1ケース以下のバラ・ピッキングの種類は積層棚が基本システムである。詳細には、在庫数量と1ヶ月間のEIQ分析を行うと保管と種類がもう少し明確になる。
 また、バラ・ピッキングの能力は200~400バラ/人・時間であるから
 バラ・ピッキングは $1006/200 \sim 400 = 5 \sim 3$ 人時となるから、1人で数時間かかる作業であろう。

EQ-PCB 分析表

12軒中ほとんどが数ケース以上の注文であるから、基本的にシングル・ピッキングである。バラのピッキングに対しては通函に混載する。

システムの脱皮

物流システムは、

数値が一桁(正確には、入数単位)違うとシステムが違ってくる。

同じデータのパレットの出荷がケースに、ケースがバラの単位のピッキングに

なるとシステムが違ってくる。したがって、EIQ データをみると配送センター・システムの推定がつくものである。

多品種小量時代で、種類あたりの注文量が1桁違ってくるとシステムが違ってくる。と言うことは、注文量が小さくなってきたら、システムを見なおさないと生産性が悪いということである。したがって、フレキシブルな配送センター・システムがよい。